栃歯発第４４２号
令和８年11月13日

関係団体長　各位

栃木県歯科医師会
会長　大野　克夫
〔 公印省略 〕

令和８年度第１回在宅歯科医療従事者研修会開催について（Web 併催）

晩秋の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

会務運営等につきまして、平素特段のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたび本会では、県内の在宅歯科医療の推進を図ることを目的に国の基金を活用し、標記研修会を下記のとおりハイブリット方式（会場参加型とWeb参加型の併催）にて開催することといたしました。

つきましては、多くの参加者が得られますよう貴会会員等へのご周知について、ご高配賜りますようお願い申し上げます。

会場での参加を希望される場合は、別添の受講申込書により本会事務局宛ＦＡＸにてお申込みください。また、Webでの参加を希望される場合は、**①研修会名 ②参加者氏名 ③所属・勤務先 ④職種 ⑤参加者メールアドレス**を記載の上、メール（ kensyu@tochigi-da.or.jp 宛）にて、本会事務局までお申込みくださるようお願い申し上げます。

また、本研修会開催後にオンデマンド配信も行いますので、オンデマンド配信を希望される場合はお申込み時に併せてご記載ください。

記

１．日　時　　令和８年１２月１３日（日）午後２時～午後４時

【申込締切：令和８年12月３日（木）／招待ﾒｰﾙ送付日：令和８年12月４日（金）】

２．場　所　　栃木県歯科医師会館　２階 大会議室（Web会議ツール「Zoom」併用）

３．講　演　　「超高齢社会における歯科医師の真の役割りとは
＝食支援＝ ―口腔ケアの可能性―」
大川歯科医院（東京都東大和市）院長　大川 延也 先生

４．対象者　　歯科医師、歯科衛生士、その他医療従事者など

５．定　員　　会場参加：100名（先着順）／ Web参加：定員なし

６．その他

・Web 参加を希望される方で、キャリアメール（ドコモ・ａｕ・ソフトバンク）でお申込みいただく場合、迷惑メール設定等により招待メールが届かない可能性がございますので、「 @tochigi-da.or.jp 」からのメールを受信できるよう予め設定をお願いいたします。

・Web 参加を希望される方は、左記の QR コードからもお申込みメールを送信いただけます。

超高齢社会における歯科医師の真の役割りとは
＝食支援＝
―口腔ケアの可能性―

大川歯科医院（東京都東大和市）院長　大川　延也

通常われわれの診療室を訪れる患者さんは歩くことができる、そして基本的に健康な方々である。それに対し在宅では多くの療養者が循環器、脳血管障害等の後遺など、何らかの「障害」をかかえながら生活をしている。そういう方々のQOLを考えた時、最も大切なことは「口から食べること」、食べる意欲はすなわち生きる意欲だからである。

在宅ケアの現場ではチームとして多職種が家族と共に協働で支援にあたり、そのチームの中で歯科医の役割は噛める歯をつくり、口腔器を整えることにある。食べられる装具をつくる上では健常者の様に、舌、頬、口唇の代償機能は期待できないため、それぞれの障害、特に麻痺や、廃用にあわせた、落ちない、浮かない、痛くない義歯（装具）が必要になってくる。また老人の死亡原因の１／３は肺炎であり、そのほとんどが誤嚥性肺炎ということから、まず口腔ケアによって、きれいな口にしなければならない。さらに噛める装具ができても、それを使いこなす口を作らねばならない。すなわちそれが口腔リハビリである。これらが三位一体となり、はじめて口から食べられるようになる。患者さんを毎日介護されているのは家族、多職種であり、この方たちが日常行っているたくさんのケアのなかに、どのようにして、口腔ケア・口腔リハビリを導入していくか、そして無理なく実践できるように指導していくことも、在宅訪問歯科医の大きな役割である。

病院、医院の医療目的は疾患を治し、社会復帰（生かす）させることであり、対象は患者さんであり、疾患である。これに対し、在宅医療の目的は在宅での生活復帰（元気に生きる）にあり、生活するための支援であり、家族、多職種と協働して行うチーム医療である。したがって在宅訪問医は患者さんを診ることは当然であるが、その患者さんの周辺環境、すなわち家庭、家族、介護環境をも含め生活全体を見て支援していくことが求められる。

【講師略歴】

大川歯科医院（東京都東大和市）院長　大川　延也（おおかわ　のぶや）

昭和46年　栃木県立足利高校　卒業
昭和52年　東京歯科大学　卒業
　　同大学　補綴学第３講座（局部義歯）入局
昭和58年　現在地　東京都東大和市にて開業（東京都東大和市歯科医師会会員）

横浜市　加藤武彦先生に師事、訪問歯科治療を学ぶ
茅ヶ崎市　黒岩恭子先生に師事、口腔ケア・リハビリを学ぶ
全国訪問歯科研究会（加藤塾）所属
NPO地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク理事

【著　書】

・「口腔ケアの効果」クリニカルプラクティス　Vol.26　No２、2007
・在宅歯科診療における短期弾性裏装材「ティッシュケア」の臨床応用：デンタルダイヤモンド　第33巻　第１号、2008　１月号
・医療連携による在宅歯科医療：在宅歯科医療での義歯への対応と問題点、日本歯科評論別冊 124-131、2008
・今日からできる口腔ケア：デンタルダイヤモンド　第34巻　第１号（１月号）～第７号（５月号）連載、2009
・訪問歯科診療の実際：口から食べるから元気になる、日本歯科産業学会誌　第23号　第２号　３～９頁
・総義歯難症例への対応　その理論と実際：在宅訪問現場での義歯治療、177-185、2009
・“口から食べる”を支える―在宅でみる摂食・嚥下障害、口腔ケア―　歯科医師の役割：140-143、2010
・難病と在宅ケア：訪問口腔ケアの実際―ALS在宅療養者の場合―、15-18、2010　７月号　VOL.16　NO.４　日本プランニングセンター
・歯科学報：たくさんの在宅療養者がわれわれ歯科医を待っている、第111巻　第５号　457～461頁（平成23年10月）Vol.111、No.５（2011）
・食べることの意味を問い直す　物語としての摂食・嚥下、28-40、190-191、2014　クリエイツかもがわ
・ALSの方に読んでもらいたい！つらい口腔症状を「引き起こさない」「やわらげる」口腔ケアを目指して　東京都医学総合研究所　難病ケア看護プロジェクト　共同研究
・神経疾患の緩和ケア　編者　荻野美恵子 他　50-51、66-67、147-148、2019　南山堂

その他